

みんなで考えよう
公共交通100



栄ぐるりんバス6年目の挑戦

栄町の公共交通を考える

問い合わせ 大竹市地域公共交通活性化協議会（自治振興課内） ☎2142

栄ぐるりんバスは、平成24年2月1日の実証運行開始から5周年を迎えました。栄町地区では、地域の実情に合った公共交通の実現に向け、地域で取り組みを進めています。

栄ぐるりんバス導入の背景

市では、平成20年3月に「大竹市地域公共交通活性化協議会」を設置。市民のための持続可能な公共交通体系を構築するため、その基本方針ならびに具体的計画を立案した「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、地域の生活交通（支線交通）を導入するための仕組みを作りました。

栄町地区は高齢化が進み、高齢者の通院や買物などが困難になりつつある状況の中で、生活に必要な交通手段を望む声が高まっていました。そして、栄町地区を住みよい町にするために地域住民を中心に、自分達で考え、生活交通手段を確保する取り組みが始まりました。

栄ぐるりんバス導入までの経緯

平成22年12月
運行を希望する有志による「小島地区公共交通バス運行推進委員会」が発足し、検討を開始

平成24年2月
栄町地区で実証運行開始

平成24年6月
利用状況を検証し、改善策を検討するため、「小島地区公共交通バス運行推進委員会」を「栄ぐるりんバス運行委員会」へ移行



栄ぐるりんバス運行委員会の様子

利用状況・運営状況

運行開始当初は、1月あたりの利用者数が143人でしたが、平成25年9月に運行日や運行便数の増加など、運行内容を見直した結果、平成25年度は377人、平成26年度は675人と増加しました。

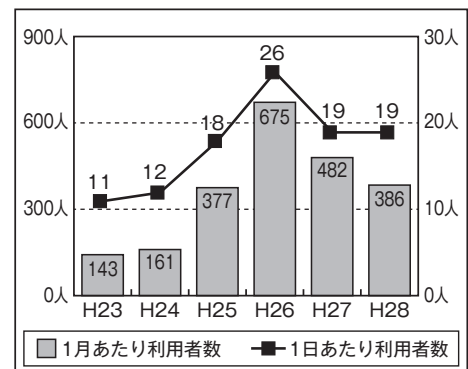
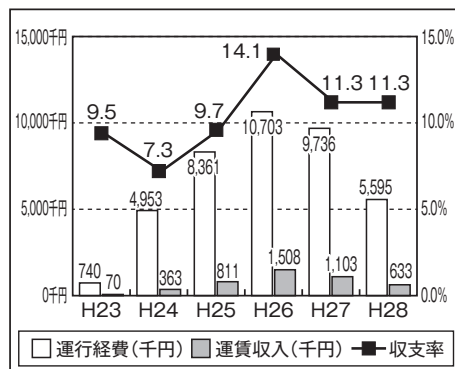
一方、他のコミュニティバスと比べ、利用状況が依然として低迷していたため、平成27年4月からは、地域住民のニーズを反映したダイヤ改正などを行いました。しかし、平成27年度は1月あたりの利用者数が482人と平成26年度と比べて193人減少しました。

運行内容見直し後も利用状況が改善されなかったため、平成28年2月からは運行経費を削減して運営状況を改善させるために、土曜日と祝日（振替休日含む）を運休することとしました。そのため、平成28年度の1月あたりの利用者数は386人と平成27年度と比べて、96人減少しています。

また、収支率も平成28年度は約11%と平成26年度の約14%をピークに減少傾向にあります。

※ 収支率とは、運行経費に対する運賃収入（広告収入を含む）の割合のことです。

栄ぐるりんバスの利用状況・運営状況



※ 運行便数の変更

平成24年2月 11便/日

週3日（月曜日・水曜日・金曜日）

平成25年9月 14便/日

週6日（月曜日～土曜日）

平成28年2月 14便/日

週5日（月曜日～金曜日、祝日を除く）